

# まちひとしごと

Vol. 24

KIYOE GALLERY NISEKO

細川 清映 さん



## アートをニセコの新たな文化に

### ス

キーリゾートに位置する宿泊施設『綾ニセコ』内のアートギャラリー。ここでは、観光地としてにぎわう外の雰囲気とは一転、静かで落ち着いた雰囲気の中、書や絵画などのアート作品とじっくり向き合うことができる。

『キヨエギャラリーニセコ』の代表を務める細川清映さんは、北見市に生まれ、道内の大学を卒業した後、札幌にある美術館などで勤務した。子どもの頃から絵を描くことが好きだった彼女は、美術を学校で専門的に学ぶことはなかったものの、これまでに国内外問わず多くの美術館などに足を運び、数々のアート作品にふれるとともに、外国人のアートに対する距離の近さを目の当たりにし

てきた。

「世界の国々では、家具を買うのと同じ感覚で、絵画を購入するなどアートが身近な存在にあります。しかし、日本ではそのような文化があまり浸透していないことが、日本人作家の作品を世に出すことの難しさに繋がっているのではないかと私は感じていました」

かねてより、自身が生まれ育った北海道で活躍する作家の作品を、より多くの人に知ってもらいたいと思っていた彼女は、今から2年ほど前、『綾ニセコ』のオープンに際し、知り合いの作家から誘いを受け、館内のアートワークに携わったことがきっかけとなり『キヨエギャラリーニセコ』をオープンさせた。そこには、主に北海道にゆかりのある作家が手掛けたアート作品が、数多く並んでいる。

「ギャラリーの作品は、どれも作家の皆さんが、限られた時間の中でひとつひとつ丁寧に仕上げたものばかりです。だからこそ私は、作品に込められた作り手の思いをしっかりと理解し、それを丁寧に伝えることで、お客様が満足する作品に出会えるよう心掛けています。アートにあまり馴染みのない方も、実際に目で見て時には触れて、気に入ったものを暮らしの中に取り入れることで、生活に変化が生まれ、毎日が楽しくなるのではないのでしょうか」

ギャラリーには、スキーやスノーボードなどを楽しむ観光客が多く訪れており、その大半は外国人だという。

「スキーリゾートニセコは今、世界中から注目を集めています。国内の作家たちの中には、自らの作品をより多くの人に知ってもらおう近道として、このエリアに期待を寄せている人も少なくありません」

彼女は現在、8月3日から13日までの期間に開催される『ニセコサマーアートフェスティバル』に向け、準備に励んでいる。このイベントは、「夏のニセコを新たな視点から盛り上げたい」彼女のそんな思いから、昨年初めて開催されたもので、国際的に活躍する作家が手掛けたアート作品を中心に、100点ほどが一堂に会する。今年もその多彩な作品が、私たちを楽しませてくれることだろう。

「ここでは、北海道という大自然の中だからこそ生まれる作品もあると思います。パウダースノーを求めて多くの人がニセコを訪れるように、アート作品を求めてこの地を訪れる人が増えてくれたら嬉しいですね」

※まちひとしごとは不定期連載です